

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



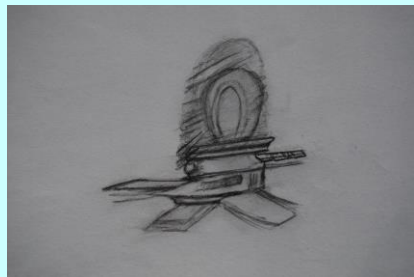
冒頭語



バラの中央に映る小型UFO



拡大写真



拡大画

年賀状用の写真を探していて、小型UFOが映っている写真を発見しました。データを見ると、2011年5月31日AM8:14となっています。しかし、確認したところ、カメラの時間が12月18日現在、22分遅れていることが分かりました。購入時には、正確であったと考え、撮影当時は約18分差し引いてAM7:56分頃となります。

この写真は、ご覧のように、2階に伸びる自宅のバラを撮影したもので、同時刻に、ほぼ同じアングルで7枚撮影した中の2枚目に映っていたものです。当時を振り返ると、確かに何かカメラに入ったような記憶があります。それは、鳥が、視界をよぎったような印象でした。しかも、2階の窓のほぼ中央でバラの花の中に映っています。最初は、何かの反射光かと思いましたが、背後を見ると茶色の手すりの部分であり、反射するようなものはありません。

良く見ると、明るい部分が非常に大きく裸電球のような形一杯に光っています。その下は、カップ状の金属質があり、向かって右側の先に突起物が見え、下部にも回転しているような突起物が3つあります。当時の印象では、物体が向かって左から右へ飛んでいたようです。

これは、明らかに意図して映っているものです。この光と同じと思われるものを12月4日の午前中にも見えています。この写真は、彼らが、東日本大震災による放射能等の影響を調べていると知らせてくれたのだと思っています。

“言葉に注目”

< あなた自身を楽しみ想念の宿にせよ >

by アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

この言葉は、ラスキン（19世紀イギリスの美術評論家、社会改良家）が言ったと伝えられています。これをアダムスキーが引用して語っています。

彼によれば、楽しさは人間を解放してくれるということです。われわれが、精神的にリラックスすることを身につけた時、SPからの援助の想念に対して感受力が高まるということです。

われわれが、楽しい想念を持つならば、もっと気楽にやれる方法が見つかるということです。地球人は、あまりに心配性で、不安を持つことから常に緊張しています。これは、SPにはないことで、彼らには理解できないようです。地球人は、緊張を続けることで、テレパシク能力が制限され、病気になるってしまうということのようです。常に、心したいものです。

「生命の科学」学習のポイントPart31

今回は、レクチャー2 心とその成分の8回目“偉大な英知とは内部の意識”という項目です。

前回の話を受け、「この高度な英知とは何でしょう？」というところから始まります。そして、具体的な例で説明します。意識は、平常の妊婦が好まない食物を摂るようと彼女の心に印象付けるということです。これに応えるように英知が彼女の肉体に運動を起こさせ、妊婦の心はその変化に気づくというのです。これは、意識からの印象によってなされます。

ここでは、意識 → 英知 → 心 という段階で説明しています。意識の声は印象であり、これを肉体の英知が理解し、肉体に影響を与え、その変化に心が気づくということです。換言すると、英知は意識の変化に気づき、心は肉体の変化に気づくということです。

胎児の創造者は、この大元である意識なのであって、意識が完全な子供が創造されるように促しているのですが、人間の心は、やってくる印象類に反対して衝突するかもしれません。これが、通常の間人生活で起こっていることであるというのです。そしてその結果、不完全な肉体（行為）が創造されるということです。

これは、人間の肉体の心が、多年のあいだに尊大になっている証拠であるとしています。それは、前進する替わりに、歴史を繰り返しているところから伺い知ることができます。

アダムスキーは、妊婦の例により、人間が本当の両親である意識を無視続けていることを知らせ、意識に従うことによって毎日新鮮さをもたらす機会を持っているのだと言っています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編31>

“読書は充実した人間を作り、書くことは正確な人間を作る” この言葉は、16世紀イギリスの経験論の先駆者、フランシス・ベーコンのもので、読書によって、新たな知識を学び、経験できないことを疑似体験できます。これを重ねることで、人間として重みが増し充実して来るものです。これはインプットです。一方、書くことは、自己の中の知識を整理する作業で、正確な人間を形成するということであり、アウトプットとなるようです。



Q：2012. 12月何かが起きる？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは、マヤ暦の終末論のことです。あくまで個人的な見解ですが、新約聖書の黙示録を代表として、この種のものには確かに根拠があるということです。これは、宇宙の計画の一部だと思われます。但し、その予定日に起こるというのではなく、その前後、ある程度の期間で起こるのではないかと思います。いずれにせよ、そう先の話ではないのかも知れません。

書物紹介

『日本人はなぜ世界から尊敬され続けるのか』黄文雄 著 徳間書店

本書は、台湾生まれの黄文雄（こうぶんゆう）氏が、3.11の東日本大震災に見舞われた日本人への応援歌として書いたものです。黄氏は、1964年以来、日本の大学で学び日本を愛し、日本人以上に日本の歴史や文化を知っています。本書では、外国人が見た日本人について、多数の書物からの引用により解説しています。その総てが、日本人が清く正しく美しい人々であることを裏付けています。今こそ、日本人は、その本性に目覚める時だと思えます。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成24年1月21日（土）、3月10日（土）、5月12日（土）、7月8日（日）、9月15日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

私たちは、いつ何が起こるか分からない、そんな時代に生きています。だからこそ、悔いのない人生を歩もうではありませんか！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第31号>

発行日 平成24年1月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

日本は、世界に先駆け超高齢化社会（65歳以上の人口が全体の3割）へ向かっています。高齢になると、筋力をはじめ視聴覚や内臓に至るまで衰退してきます。その結果、様々な病気を発症し、医師にかかる回数が増え介護が必要な状態ともなります。

高齢になるということは、年を重ねるということです。年を重ねるということは、知識や経験を重ねていくということです。このことから、年とともに感動が薄れるという話も聞きます。これは、何度も類似の経験をしているので、新鮮味がないことから起こるようです。

小さい頃は、何をしてもその肉体にとっては初めての経験であり、新鮮な喜びや感動が沢山あります。だから、幼児は楽しいのです。これらは、人間にとっての基本的な部分での感動とすることができます。

一方、高齢になると、そのような基本的な感動からは卒業し、衰退が顕著になって成長という部分が見えなくなります。そこで、高齢になることは、何も良いことがないとも言われています。しかし、そうなのでしょうか？

実は、年を重ねることで、新たに生まれる感動というものもあるのです。誰もが経験することですが、若いころは、好きではなかったものが、年とともにその良さが分かるようになることがあります。これは、着る物、食べ物、音楽など色々あるでしょう。そして、発見するたびに感動するのです。また、そのものが生まれた背景、物語、困難さを知ることで、その良さを理解し感動する場合もあります。

これらの場合、以前、好きであったことを嫌いになるのではなく、その良さを理解しながら他の良さも理解できるように幅が広がるのです。これは、感性の成長とすることができます。

SPの長老は、大変な尊敬を持って迎えられます。地球的に解釈すれば、若い世代では知り得ない知識や経験を持っていて、それを他者へ分かりやすく伝えられる能力を持っているからでしょう。私たちアダムスキー信奉者も、年を重ねることで様々な経験をストックし、一般人をはじめ後輩諸氏に尊敬されるようになりたいものです。

“言葉に注目”

< 自己を理解することが第一の要件だ >

by アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが土星の母船で再会した指導者から言われたものです。このことを、地球の同胞の心に印象付ける必要があると伝えられています。自己を理解するためには、自分とは誰なのか？・・・という疑問が生まれます。まず、そのことを考えさせる必要があるようです。事実、アダムスキーは、「生命の科学」等で何度も語っていることです。そして、人間には付け加えるべきものは何もないことを気づかせよと言います。つまり、必要なすべては自己の中にあるということを理解させるのです。そして、自分は何を所有しているのかを考え、それを実行することが大切であると説いています。そうすれば、視覚、聴覚、味覚、嗅覚を構成する元素類が向上し、鋭敏な器官になるのだという大変重要なことが語られています。

「生命の科学」学習のポイントPart32

今回は、レクチャー2 心とその成分の9回目“人間は恐怖に支配されている”という項目です。初めに、「心は知識と信念の欠乏によってひき起こされる恐怖を通じて働いています。」と書いています。そして、「恐怖が心の主人となっていて、何らかの形で地球上のほとんどあらゆる人間を支配しています。」としています。この辺は、賢明な人なら理解できることですが、自覚していないだけで、あらゆる地球人を縛っている元凶として知っておく必要があります。

また、フランクリン・D・ルーズベルトの言葉を引用して、「恐怖そのもの以外に、恐怖すべきものは存在しない」と書いています。つまり、恐怖すべき対象など本来存在しないが、人間の心によって生み出された恐怖と言われる概念こそ恐怖すべきものであるということでしょう。

次に、「意識が心に何をなすかではなく、心が意識に何をなし得るかが問題である」と書いています。人は、自分が意識に対して何かを成すより、意識からの加護を願います。こうした逆さまな生き方が、地球人には一般的となっているのでしょうか。しかし、こんな地球人にも意識という永遠の中央通りに落ち着く時が来たと言っています。

人間は、宇宙の意識という本来の主人を忘れ、目先の現象に夢中になっていることから、意識的な感受力が衰退し先が見えない世界で生きています。これが、恐怖を培養することになるのです。このことは、前段にある人間の心の知識と信念の欠乏にもつながることなのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編32>

“時は得がたくして、失いやすし” この言葉は、約3千年にわたる古代中国の歴史を記した司馬遷の「史記」に書かれているものです。この“時”というのは、時間という意味ではなく、チャンスとうことで、チャンスはなかなか訪れないし、去りやすいものであるという意味です。人生において、様々な機会にチャンスが1度くらいは訪れるものです。しかし、躊躇していると逃してしまうということを経験的に知っているでしょう。肝に銘じておきたいものです。



Q：世界は良い方向へ向かっている？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：資本主義経済システムは社会発展に貢献しましたが、自由を強調し過ぎた結果、私欲を増大させ競争の激化により人間の精神を疲弊させたと思われます。恐らく、同様な方法で世界的な幸福を実現することはできないと考えています。これからは、米国を初め欧州や中東など、経済的に目の離せない状況が続くことに加え、戦乱の噂が飛び交うようになるかも知れません。世界は、これから混迷の時代へと突入していくようです。

書物紹介

『ルポ、貧困大国アメリカ』 堤 未 果 著 岩波新書

WTOが2000年に出した世界医療ランキング米国37位（日本10位）、乳児死亡率米国43位（日本4位）で、米国は、とても先進国と言える状況ではなくなっています。これは、利益を重視し、市場原理を導入した株式会社化した病院経営に問題があるというのです。しかし、この方式を在日米国商工会が日本政府に申し入れしているというのが現状です。公立小学校に通う児童の50%が肥満で、その多くが貧困世帯など米国の貧しい実情が綴られています。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成24年3月10日（土）、5月12日（土）、7月8日（日）、9月15日（土）、11月23日（祝）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

「生命の科学」は真理の書です。これを軸に生きることで、宇宙の法則を理解しアダムスキーの正しさも自明のこととなるでしょう。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第32号>

発行日 平成24年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球上においては、個性を尊重し個性をうまく表現できるようになることを自己実現と呼んでいるようです。日本の教育においては、教育基本法の第1条において「・・・教育は人格の完成を目指し・・・」とされ、この人格とは個性を抜きに語れないものと言えるでしょう。

しかし、アダムスキーの代表的書物である「生命の科学」（中央アート出版社）によれば、大雑把に言って、地球上で言われている個性というものは、エゴであると解釈できます。エゴというのは、視覚、聴覚、嗅覚、味覚という四つの感覚器官（センスマインド）によって形成されているものです。

このように解釈することは正しいのですが、どこかが違うような違和感を覚えることでしょう。この事実から、生命の科学が正確に理解できない理由が分かるとも言えるのです。

生命の科学の77ページには、「意識とは万物の魂」という項目があります。また、103ページには、「肉体を斬る者を恐れなくて魂を斬る者を恐れよ」というイエスの言葉を引用した表現が出てきます。

ここに出てくる魂とは、輪廻転生を繰り返す個人の本質的な部分であり、大元は宇宙の意識からの分け御霊であると解釈できます。この魂を磨くことこそが、あなたの成長であると言えるのです。

一方、エゴとは、感覚器官の心であるため“好きか嫌い”あるいは“損か得か”というような目先のことを基準に判断しています。そのことを強化したところで、精神的な混乱が増えるだけでしょう。しかし、ここで全く駄目と言えないのは、エゴとはいえ魂とともに成長していく部分だからで、地球上では、あまりに未熟のためほとんど信用ならないのですが、当然ながら、まったく意識と離れているわけでもないのです。

私たちは、センスマインドの魂ではなく、意識の魂を自己の真の部分として認め、成長していかなくてはなりません。そのためには、好きか嫌いではなく、意識という視点で感じ、考え、行動できるよう、日々、精進していかなくてはならないようです。

“言葉に注目”

< 人間は自分で考えればおりの者になる >

by アダムスキー著『21世紀生命の科学』（中央アート出版社）

これと類似の言葉として、「自分の寝台は自分で作る」というものがあります。ともに、自らの意志で希望は叶う、あるいは今の自分は、自分の考えの結果であるということを意味しています。特に今回の言葉は、各時代の大師たちが伝えた宇宙の原理であると言っています。そして、この原理を生かすためには、常に新鮮さが必要であるということです。常に新鮮さを持っているために、金星人たちは若々しいのだと語っています。

つまり、常に新鮮な想念を持って自分の望む結果を得ようとすれば、例えばそれが若々しさであれば、その結果として体も若々しくなるということです。今回の言葉は、自分（人間）の背後にある意識への信頼と、その活用について強く感じさせるものです。

「生命の科学」学習のポイントPart33

今回は、レクチャー2 心とその成分の10回目“意識と心は別個に存在する”という項目です。「テレビの受像機があれば動く画像が室内で見られるほどに、そしてまたラジオという増幅器があれば空中を流れる音響や音楽を聴けるほどに人間の心は発達しています。」と書いています。これは、生命の科学独特の表現です。

注意しなくてはならない部分は、“人間の心は発達”というところです。いわゆる魂ではなく肉体に関連する心の発達なのです。心が、機械的な画像や音響を意味あるものとして認識できるようになるという発達と、そのような物体を生み出したという部分も後ろに隠れています。

しかし、意識が肉体を離れたならば肉体は死を迎えるが、感覚器官の機能が失われても意識があれば本人は生きているのだと言っています。だから、意識と心は別であると言うのです。これを一人が他方に頼りながら一軒の家に住んでいる人に例えています。

ここで見落とせないのは、意識が離れた肉体でも細胞は生きているということです。だから、臓器移植が可能なのです。しかし、外界を認識できる在来のは機能を失うということです。肉体の心は、宇宙的な性質を帯びた意識（魂）がないと機能できないからです。

この心と意識の融合が何より重要となりますが、このためには、あらゆる行為の背後にある原因について心に考えさせる習慣を養うことが必要だということです。この原因とは、宇宙的なものか、世俗的なものか常に分析することを意味しています。意識は、善も悪も知らないと言きながら、その指導の手は常に善と呼ぶ方に導びくと書くところに真理が潜んでいます。

宇宙に“生きる”

<名言格言編33>

“三歳の翁 百歳の童子” これは、たとえ話として知られているもので、年が若くても思慮分別がある者もいれば、年をとっても愚かな者もいるということです。ここでは、年とともに賢くなるということを前提としていますが、思慮分別というものは、年に関係がなくできる者とでない者がいます。ここは、家庭教育に負う部分が多いように思いますが、同じように教育された兄弟であっても異なることから、個性とも関係するものと思われま

Q：SPの痕跡は日本にもある？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：スペースピープルが本当にいるなら、日本でも何らかの痕跡があるはずで

特殊な民族である日本人は、日本列島への移住そのものが、スペースピープルに導かれていたと考えられます。その痕跡は、日本人の心の中心を作った神道や天皇制、あるいはいくつかの神社等に伝承などの形で残されています。京都の鞍馬寺では、650万年前に金星から地球救済の使命を帯びて護摩魔王尊が降臨したと伝えられています。これも痕跡の一つでしょう。

書物紹介

『武士道』 新渡戸 稲造 著 三笠書房

本書は、著者とベルギーの著名な法学者であるラプレー氏との対話から端を発し英文で書かれたものです。対話では、日本に宗教がないことから、日本ではいかにして道徳教育を受けているのか質問された。この質問に対して、著者は即答できなかった。そこで、その理由を熟考し、回答としたものが神道の影響を受けた「武士道」です。ここでは、「義」「仁」「名誉」など武士道の本質が綴られています。本書は、現代の日本人にも読んでもらいたい名著の一つです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成24年5月12日(土)、7月8日(日)、9月15日(土)、11月23日(祝)、1月12日(土)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館(浅草寺社殿の道路東側)8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

「生命の科学」は、やはりすごい書物ですね。少なくとも、そのすごさを実感できるほどに精進する必要があるでしょう。ご健闘を祈ります。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第33号>

発行日 平成24年5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

資本主義経済圏が揺らいでいます。2007年米国のサブプライム・ローン（低所得者向け住宅ローン）がよりどころとした地価が下落に転じ、返済ができない世帯が増えたうえに、これを商品化して売却していたことから被害が拡大しました。

そして、翌年、米国の世界有数の証券会社リーマン・ブラザーズが破たん、同日、巨大証券会社のメリルリンチがバンク・オブ・アメリカに吸収され、翌日、世界最大の総合保険会社であるAIGが破たんし国有化されました。そもそも、世界最大の財政赤字国家である米国で、証券関連企業の崩壊が起こっていることに留意する必要があります。

この破たんの波は、EUへと広がり、ギリシャをはじめポルトガル、イタリア、スペインなど、企業どころか国家破たんさえささやかれています。これらは、米国を中心とする新自由主義が、市場原理を史上主義とする考えを掲げ、デリバティブ（金融派生商品）と言う金融工学により商品を生み出し、それが投資の主軸となったことが要因ではないかと思われます。そもそも、市場原理と言いながら、資本主義経済の基本である株式会社の株にしても、一般投資家とは関係ないところで常に操作がされているのは明白な事実なのです。

生活の基盤である経済の凋落は、経済界だけではなく人的災害である犯罪の増加や低所得者の増加を生みだし、これが精神性の低下へとつながっています。そして、今や自然災害である地震、ゲリラ豪雨、竜巻などの被害拡大に加え、他国教育への人為的な介入、情報操作による内乱の誘発や歴史の作威的な書き換えなどが、国益や一部の利益を守る手段として、日常的に世界各国で行われているのです。

正直なところ、これらは末期的な症状なのです。これは、経済の仕組みが末期的と言うより、これを認め推進している各国それぞれの精神性が末期的と言えるのです。

ここからの脱却は、相当の犠牲を伴うでしょう。少なくとも何が真実で、何が嘘か分からない世界での真偽判断は、通常の現状把握からでは困難です。現実の世界には、何の拠り所もありません。今後は、今まで以上に“宇宙の意識”を拠り所に生きていく必要があるでしょう。

“言葉に注目”

< …同じことをやってみようという願いを地球人に起こさせる… >

by アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

この文の前に、「彼ら（SP）の調和ある生き方を示すことによって、」という文が入り、表題の次に、「ことを望みながら地球人のあいだに混ざって生活しているのである。」の文が続きます。SPは、地球人が宇宙的な生命の諸法則を学ぶのを手伝うために地球へ来ていると書いています。そして、地球人が、自己の想念や行為の中に含まれている諸法則を理解していないことを認め、表題のような行為で接しているということです。

この精神は、アダムスキーの最初の書物である「Flying Saucers Have Landed」や「Inside The Space Ships」から一貫して感じられるものです。SPは、強要はできないけれど、生き方としてどちらがよいのかを示すことで、地球人の成長を母親のように見守っているようです。

「生命の科学」学習のポイントPart34

今回は、レクチャー2 心とその成分の11回目“この講座は進化した惑星の人々から伝えられた哲学”という項目で、レクチャー2の最後のところです。

冒頭、「神の意志」というのはしばしば用いられている言葉です。もしあなたが、意識である神の指導によって学ばないならば、苦しい結果をもたらすあなた自身の“心の意志”によってあなたに学ばせることになります。ゆえに神はあなたの体験に責任はないのです。」と書いています。本項で、ここは最も重要なところです。

これを説明すると、まず、神の意志に留意する人が多いということを明記し、意識こそは神の意志の表れなのだから、そこから学ばないなら、必然的に心によって学ばなくてはならず、それは苦しい結果をもたらすというものです。そして、神は、意識によって自らの意志を常に表明しているのだから、それを無視して苦しんだとしても、神はあなたの体験に責任はないのだということです。

この文章から、“知恵（自由）”を知った人間にとって、意識に従うことが苦痛と感じていますが、実は、意識に従うことが苦しめないことであると理解されます。

後段には、「創造主の法則はきわめて簡単です。そうでないとすればイエスが「幼児のようになれ」と言うはずは・・・」とあります。この簡単という意味は、邪気を持たない平素な心を意味しています。子どもは、正にそうだというのです。これが困難なのは、そのように教育されているからで、だからこそ、「生命の科学」が地球へもたらされたのだと理解できます。

宇宙に“生きる”

<名言格言編34>

“鈍すれば貧する” これは、頭の働きが鈍くなれば、金銭面でも利益を得ることができず、生活は苦しくなるということです。人間には、使うほどに賢くなると言われる脳があります。この脳が、鈍れば当然に生活のすべてが鈍ります。この言葉は、単に利益を得るためのことではなく、常に学んでいく必要性を訴えている言葉だと理解することもできます。



Q：G・アの書物で何が最も重要なのか？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーの書物では、「21世紀/生命の科学」、「超能力開発法」、「21世紀宇宙哲学」の3冊が、彼の功績の金字塔となっています。特に、「21世紀/生命の科学」は、SPがアダムスキーを通じて地球へもたらしたのもで、地球人にとって最も重要な書物となっています。しかし、「第2惑星からの地球訪問者」、「金星土星探訪記」、「UFOの謎」においても多くの宇宙の真理を伝えていきますので、繰り返し読むことをお勧めします。

書物紹介

『2012年、日本経済は大崩壊する!』 朝倉慶著 幻冬舎

本書は、「経済の超プロ・K氏」として船井幸雄氏が紹介している朝倉慶氏の著書です。氏によると、コンピューターによる株式取引が行われ1000分の1秒単位の取引により、数秒間で、天文学的な巨額の利益をあげているというのです。コンピューターに盛り込んだソフトにより、最大の利益が上がるような取引を瞬時に行うというものです。また、借金まみれの先進国やインフレ爆発の新興国など、この行き詰まりは経済大崩壊の前兆だということです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆東京開催☆平成24年7月8日(日)、9月15日(土)、11月23日(祝)、1月12日(土)、3月10日(日)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館(浅草寺社殿の道路東側)8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

この世は“うそ”の塊です。あまりにも“うそ”が多いので、人々は真贋の判断ができないようです。この事実気づくようになろう!

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第34号>

発行日 平成24年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「弁証法」という言葉を知っていますか？ これは、古代ギリシャの哲学に初めて登場したとされ、ソクラテスが活用しプラトンが広めアリストテレスも認めていたようです。しかし、現代において弁証法と言う時、一般的にはドイツの哲人ヘーゲルの弁証法を指しています。

それによると、ある命題（テーゼ＝正）と、それと矛盾する反対の命題（アンチテーゼ＝反対命題）、そして、それらを本質的に統合した命題（ジンテーゼ：合）という3つから構成されます。つまり、思考や物事は、正：反：合の法則により展開するというものです。

私たちの世界を見ると、正（プラス）と負（マイナス）、善と悪、N極とS極など、必ず相反するものが存在します。これは、正と反に相当します。それでは、合の状態とは何かと言えば、正でも反でもない状態で、両者の釣り合いによる第3の状態を指していると思われる。

1 + 1 = 3と言う法則にも関連します。1と1を関係させることによって、第3の状態を出現させるからです。具体的には、正と負を結びつけることによって、正と負とは異なるスパークを生み出すこととなります。

宇宙を創造した宇宙の意識は一つだけれど、その存在は、宇宙という物理的な世界の中で、正と反という相対立する法則を利用しているように思われます。宇宙の意識は絶対的ですが、正と反の法則は、片方の存在がもう一方を存在させるという相対的なもののようです。

言い換えると、片方だけでは存在できないという神秘的な存在です。正と負、N極とS極、そして、善と悪も片方の存在が片方を肯定しているのです。

人間社会では、ある考えに対して賛成する人がいる一方、どんな場合も必ず反対する人がいます。そこで、このどちらも考慮した折衷案が賛同を得ることとなります。これが正に、正・反・合です。

過去の歴史や人間社会の細かい事柄においても、正・反・合という弁証法的な展開が見られます。これは、宇宙的な法則あるいは性質と解釈することができるのではないのでしょうか。

“言葉に注目”

< リンゴの木は創造と再生の象徴として見事に役立っています >

by アダムスキー著『21世紀の宇宙哲学』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーがマスターと慕っていた土星母船の長老からのもので、会見が実現できないことからファーコンにこの言葉を託し伝えられたものです。

要約すると、リンゴの木は種子からはじまるが、種子の内部には「リンゴの木になれ」とせきたてる宇宙的な衝動があります。やがて実のなる樹木に成長し、季節がくると柔らかな新しい葉が成熟し、優美な花をつけ芳香は花粉を引き寄せます。リンゴは実を結び、雨風を受けながら立派に成長していきます。熟した実は、もぎ取られるか地面に落ち、親から離れます。地面に落ちたリンゴは、自身を土に還すけれども新たな芽を生じることでしょう。リンゴが人間なら、自身の美しさと自由意志を喜び誇り、エゴを発達させて因なる親を忘れるでしょう。

しかし、人間もリンゴの再生のように、死に際には新たな肉体が提供されるのです。こうして、奉仕と理解の高次な状態に進化するための機会がたえず与えられているということです。

「生命の科学」学習のポイントPart35

今回は、レクチャー3 宇宙の法則の応用の1回目“電気自体は責任者ではない”という部分。

電気は、発電所で作られ送電され、一般人が利用法を習い教えられたとおりに使うならば多くの点で恩恵に浴することができます。しかし、ソケットに手を突っ込んだり、濡れ手で触れば、法則の誤用によってけがをしたり不快な思いをしますが、電力を喜んで供給している発電所の従業員を非難できないと書いています。

そして、「宇宙の創造主は人間に生命力と、意識という経路を通じて英知を与えています。」と記し、エゴの心は法則に従って生命力と英知を良い方向にも悪い方向にも向かわせることができる。このために自由意志が与えられているということです。

ここで見逃せないのが、エゴが宇宙の法則を活用できるということです。つまり、宇宙的にならないと法則を活用できないのではなく、現在の自分のままで、宇宙の法則を活用できるということなのです。ここは、しっかりと理解しておく必要があります。

次に、テレビを例に各装置は電気も知性も持たないが、電気を流し電波を吸い込んで知的な映像を発信します。人間もこれと同じであり、生命の息を役立たせるために吸い込んだり吐き出したりしながら生命表現をしています。

心は、テレビ受像機の検波管、意識は、電気と知性のようなものであると説明します。そして、「生命の呼吸という方法によって心を刺激します。」と書いています。人間の心は、常にこの呼吸によって刺激をされています。しかし、それに気づかないということなのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編35>

“住めば都” 他人からすれば、寂しく不便なところに見えても、いったん住み慣れれば愛着がわいてきて、住みよくなってくるものだということです。不思議なことに、このような体験者は多いものと思います。進化した惑星から地球へ生まれた人々も、地球人の肉体を得たからこそ、この地で“住めば都”を体験しているのかも知れません。



Q：G・アの教を生かすためには？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：初めに、アダムスキーの体験や哲学を真実のことだと認めることです。そのうえで、伝えられた事柄の真意を理解することが重要です。当たり前ようですが、この理解が深ければ深いほど自然に実践できるようになります。特に「生命の科学」は、深遠であるため深く理解するには時間がかかります。この実践には、宇宙の意識を信頼する意志と意識からのインスピレーションがカギとなります。不断の努力が実を結びと願いたいものです。

書物紹介

『日本人の誇り』 藤原正彦著 文春新書

最近では、「国家の品格」で知られた著者が、敗戦後歴史を失った日本人に誇りを取り戻して欲しいと書いたものです。この種の本は、たくさん書かれていることから、日本を憂う真っ当な日本人がいるのだと心強くなります。その中でも、本書は、扱う範囲が広く総合的に書かれている名著だと思います。地球の中で生きることの難しさ、グローバリズムのリスク、和を大切に特殊な国日本、勝者に歴史を作られた日本の真の使命が垣間見える好著です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成24年9月15日（土）、11月23日（祝）、平成25年1月12日（土）、3月10日（日）、5月12日（日）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

平成26年度の1年間、台東区民会館が改修工事のため利用できなくなります。学習会をどうするか？ ご意見等をお寄せください！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第35号>

発行日 平成24年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）